

令和元年度 自己評価(最終評価)

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 書く力の向上	①自分の考えや思いを、適切な文章で表現する力を養う。	○教務課 小中高等部 寄宿舎	個に応じた目標を設定し、指導できた。 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員 = 100% A	各担当者が自分の担当している児童生徒の実態を把握し、実態に合った指導をしている。発表の場を設け、それに向けて自分の考えを書いてまとめる活動も増え、書くことから発表へと表現することにもつながってきている。今後は、様々な指導方法について、情報交換の機会を増やすことが必要である。
学校関係者評価委員会の評価		・書く力には、思いを文字にすることや必要な情報を文字に取り入れることがあるが、これらはそれぞれ違う力である。必要な情報を取り入れるために、あるテーマに沿って文を読むこと、調べること、まとめることなどの活動が必要である。 ・子どもたちが社会に出たとき、自分の習得した書く力や読む力を使うことによって情報を取り入れ、積極的に表現してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・書く力については、個の実態に応じて指導の目的は違っている。今後も一人一人の目標に向け指導するとともに、表現し発信できる場を設けていく。			
2 授業改善の取り組み	②幼児児童生徒が主体的に学ぶために見てわかる・確実に伝わる内容となるように授業改善に取り組む。	○研修課 幼小中高等部	研修や研究授業のあと、自分の授業改善に活かすことができたと感じる教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員 = 96% A	前期に引き続き、研修講座やオープン参観を通して授業改善ができたという意見が多かった。また、部研究の一環として、学部全員で授業改善を行った学部もあった。今後は、一人一人が自分の課題を認識し、改善の視点を持って授業づくりに取り組めるよう視点表などを作っていく。
			授業に満足している幼児児童生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童生徒 = 97% A 保護者 = 95% A	研修講座や指導力向上の講演会を生かした授業の改善がみられた。手話や写真などの視覚支援、聞こえ方を意識した話し方、個別のペースに合わせた学習など実態に合わせた支援が行われた。今後は、目で見てわかる授業づくりや相談、話し合い活動を取り入れていきたい。学校の取り組みや教科の学習の様子、進捗などを保護者に知ってもらうことも更に必要である。
学校関係者評価委員会の評価		・改善できたこと、改善できていないことを明確にして、社会につなげるために学校教育を考えてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・授業改善については、各部や各自でそれぞれの課題に応じて改善に取り組んだ。次年度は、専門性に対する課題を明確にした授業改善へとつなげていきたい。			
3 防災教育の充実	③防災教育	○指導課 幼小中高等部 寄宿舎	災害について関心がたまった幼児児童生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員 = 90% A 幼児児童生徒 = 95% A	引き渡し訓練などで、担任のあるなしに関わらず行動する機会が増えたため、多くの先生が指導に関わることができた。今年は通常の避難訓練のほかに、避難所調べや避難所体験の活動を体験したことで、より深く災害について考えることができた。避難訓練後には、各生徒が災害の種別に応じて行動しようと話し合う姿や緊急表示システムを見て、素早く正しい行動をとろうとしている様子が見られた。
	④地震などの災害が発生したときの過ごし方について学ぶ	○防災委員会 幼小中高等部 寄宿舎	仮想体験で、自分の役割を果たすことが出来たと感じた教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員 = 84% A	仮想訓練において、概ねの職員が自分の役割を理解してある程度行動することができた。事前に課会で話し合ったことで様々な想定での行動を考えたり、訓練の場で臨機応変に対応したりする機会となった。年度初めから各課で万が一に備えて自分の役割を把握できるようにしておくことが必要である。
	⑤災害備品についての知識	○保体課 幼小中高等部 寄宿舎	災害備蓄品や活用方法についての理解が深まった教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員 = 90% A	備蓄品の数量や消費期限を正確に把握するとともに、災害初期における必要物品リストを作成し、不足物品の提案を行うことができた。今後は、不足品購入及び更新の効率的なスケジュールを作成することが必要である。
学校関係者評価委員会の評価		・教員の意識の高まりが感じられ、良い取り組みだと思う。 ・防災と共に、感染症などについても子どもたちにもきちんと伝え、対策していかなければならない。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・防災について、今年の訓練では各課ごとに役割を決めて行った。幼児児童生徒を含め、教職員の意識を高めるためにも、次年度も継続して取り組んでいきたい。 ・感染症対策では、幼児児童生徒や保護者にも理解を求め、文書やHP等で周知に努めた。今後は基本的な手洗いやうがいなどの徹底に努めたい。			
4 効率的な働き方	⑥職場環境の改善	○総務	職場環境を改善することができたと感じた教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員 = 80% A	各個人・各部・各課が、保管する文書の精選や置き場所の工夫等を行うことで、机上や棚が整理された。会議のレジュメや記録を紙ベースではなくデータ化することで、個人で保管する紙資料が削減された。今後は、誰でも必要なときにすぐに資料を利用できるように、データの整理整頓をしていく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		・職場環境5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)は大切であり、学校でチームとして取り組んでほしい。子供たちにとっても大切なことなので、学校生活の中で習慣づけられたら良い。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・職場環境の改善では、教員個人がまず机上の整理に取り組んだ。課や部で書類の整理をするなど、今後はチームで取り組みたい。			